

施策マネジメントシート

基本施策名	16花と緑と水のある環境づくり	施策 統括課	環境政策課	氏名	鈴木孝
政策名	6環境	主な 関係課	下水道課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等
・市内全域 ・公共用水域

② 施策の目的
市内外に国立の魅力を印象づける重要な地域資源として、より多くの緑を保全し、市内の貴重な水資源の水量の確保と水質の向上を目指します。

③ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

	名称	単位
ア	人口(年度当初の人口4/1現在)	人
イ	市域面積	km ²
ウ		
エ		

④ 成果指標 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)		単位
1	ア 緑が十分にあるまちであると思う市民の割合	%
	イ	
2	ア 雨水浸透ますの設置数(累計)	基
	イ 湧水の測定地点における環境基準の達成率	%
3	ア	
	イ	
4	ア	
	イ	

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 花と緑の確保	将来にわたって継承すべき貴重な財産として、花と緑を大切に守り育て活かせます。	◆緑の基本計画の改訂では、「生き物と共に暮らせるまち」のコンセプトを尊重し、市民参加も含めた「自然調査」を実施のうえ改定に取り組めます。 ◆屋上緑化、緑のカーテン(壁面緑化)、生垣の形成を促進し、公共施設や民間建築物の敷地内及び屋上、壁面等の緑化を推進します。 ◆立川崖線、青柳崖線や東京都の歴史環境保全地域である「谷保の城山」などの市内に残された貴重な緑の保全を推進します。 ◆崖線の適正な維持管理を進めるとともに、「農の営みが残る原風景」の保全を推進します。 ◆花と緑のまちづくり協議会の活動を促進し、花と緑を充実させていきます。 ◆市民の身近な緑である公園を適正に維持、管理します。 ◆大学通り緑地帯の快適な空間づくりを推進します。 ◆矢川上土地区画整理事業の見直しに伴い、区画整理区域に計画区域が含まれている矢川上公園の拡充整備を進めます。
2 水環境の保全と活用	矢川や湧水等の水環境を保全し、市民生活に精神的な安らぎや潤いを与えます。	◆地下浸透機能を持つ緑地等の保全や雨水浸透ますの設置を促進し、地下水のかん養に取り組めます。 ◆地下水及び湧水の定期的な調査・監視を行い、その結果を踏まえ良好な水質を維持するために必要な対策を講じます。 ◆市内に残された貴重な自然資源である矢川や湧水、府中用水などの水環境を市民の憩いの場や学びの場として活用します。 ◆農の営みが残る原風景を次世代に繋ぐため、老朽化した府中用水護岸の長期維持管理計画の策定に向けて水路台帳を整備し、適切管理に取り組めます。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	目標達成度		
対象指標	ア	人	見込み値					75,972	75,972	75,972	75,972	達成・ 未達成	前年度 比較	
			実績値	76,282	76,423	76,278	76,182							
		km ²	見込み値					8.15	8.15	8.15	8.15			
			実績値	8.15	8.15	8.15	8.15							
	ウ		見込み値											
			実績値											
	エ		見込み値											
			実績値											
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値								達成	向上	
				目標値	48.1	48.7	49.4	50.0	51.3	52.5	53.8			55.0
				実績値	53.0	52.6	-	50.5	86.9					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		緑が十分にあるまちであると思う市民の割合⇒R6年度より、回答項目が変更となり、思う (29.6%)とわりと思う(57.3%)の合計数値を実績値として採用 (R5年度以前は、十分にある、 普通である、不十分であるの3択で、十分にあるの数値を採用していた) 出典元: 国立市市民意識調査								
		イ		成り行き値										
				目標値										
				実績値										
				基本計画における 指標の説明又は出典元										
	展開方向2	ア	基	成り行き値								未達成	向上	
				目標値	19,175	20,250	21,325	22,400	23,475	24,550	25,625			26,400
				実績値	19,052	20,198	21,334	22,254	23,307					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		雨水浸透ますの設置数(累計) 指標の説明: 市の助成及び窓口指導によって設置された雨水浸透ますの基数(各年度末)								
		イ	%	成り行き値									達成	維持
				目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
				実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		湧水の測定地点における環境基準の達成率								
	展開方向3	ア		成り行き値										
				目標値										
				実績値										
				基本計画における 指標の説明又は出典元										
		イ		成り行き値										
				目標値										
				実績値										
				基本計画における 指標の説明又は出典元										
	展開方向4	ア		成り行き値										
				目標値										
				実績値										
				基本計画における 指標の説明又は出典元										
		イ		成り行き値										
				目標値										
				実績値										
				基本計画における 指標の説明又は出典元										
事務事業数			本数											
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円										
			都道府県支出金	千円										
			地方債	千円										
			その他	千円										
			一般財源	千円										
	人件費		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0		
			延べ業務時間	時間										
			人件費計 (B)	千円										
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0		

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)

B:目標をおおむね達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

・花と緑のまちづくり事業(花と緑によって、まちに彩りと潤いを与え、人々のにぎわいをつくり、人と人がつながることで安らぎを感じる都市環境の創造を目指す市民協働事業)の推進により、市民の皆様の協力を得ながら、花と緑にあふれた潤いと安らぎのある公園、緑地の維持管理に取り組んできた。

・雨水浸透ます設置助成金制度の利用は無かったが、開発行為等により窓口指導での設置が多数あることにより、年々設置数は着実に伸びている。

・ママ下湧水及び青柳段丘湧水における水質調査では、生活に係る環境基準(pH、生物化学的酸素要求量、浮遊物質、溶存酸素量、大腸菌群数)は基準値内であった。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

みどりは、身近な自然とのふれあいや安らぎ、冷涼な空気を生みだす憩いの場の提供等、市民生活にとって不可欠なものであり、また、環境保全、防災、レクリエーション、都市景観等の面でも重要な役割を担っている。一方で都市化の進行により、農地を含む市内の緑地面積は減少傾向にある。

湧水については、冬期を中心として水量の低下がみられるため、引き続き、雨水浸透ますの設置促進などの地下水かん養の取り組みを推進していく。また、平成26年度には「雨水の利用の推進に関する法律」、「水循環基本法」の二つの法律が施行され、水資源の活用や保全などに関し、国等の責務が求められている。

また、花壇づくりや接ぎ木育苗など、市民ボランティアによる協働事業を展開しているほか、地球温暖化による台風の大規模化等に伴い、市内においても平成30年度に大学通りの桜の倒木、令和元年度の多摩川の逸水による河川敷公園の被災など、安全対策への取組も求められている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

大学通りの桜等の倒木などにより、人への事故がないよう、安心安全の確保を徹底して欲しい。

城山の歴史保全地区をはじめ、南部地域の自然や景観資源の保全を推進してほしいという要望がある。

ソーシャル・インクルージョンを実現するような公園の整備要望がある。

府中用水を環境型用水路として、通年通水を行うことや、崖線等の樹木の保全などの要望がある一方で、崖線等の樹木に対する近隣住民からの各種苦情(落葉や日陰)も発生している。

水田農家の減少により、農家で組織する用水組合での用水の維持管理が難しくなり、用水の維持管理保全について、市に要望が寄せられている。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

環境基本計画、緑の基本計画ともに多摩26市すべてで策定済(日本全国では環境基本計画の策定率58%、緑の基本計画の策定率50%)であり、国立市においても多摩地域の他自治体と同水準で取り組んでいる。

(4) 施策の具体的な取組状況

6年度の取組状況	7年度の取組予定
・「国立市緑の基本計画」について、これまでの施策の整理と新たに市民の緑に対する意識やニーズを捉えつつ、生物多様性の「ネイチャーポジティブ」の考え方を踏まえ、「国立市緑の基本計画及び生物多様性地域戦略」を策定した。 ・引き続き、大学通り緑地帯での市民ボランティアによる花植えやその維持管理作業を実施し、季節ごとに色とりどりの花々に癒される花と緑のまちづくりを推進した。 ・樹木の維持管理や緑化に関心のある方を対象に、「くにたち緑のサポーター養成塾」を開催し、緑のサポーターの育成に取り組んだ。 ・公園や緑地帯における樹木の安全管理として、倒木や大枝の落下などの事故が発生しないよう、適切な剪定や維持管理、必要に応じた更新に取り組んだ。 ・「崖線樹林地の保全に係る基本的な方針」を定め、民有崖線樹林地については公有地化して保全に取り組んでいるほか、「農の営みが残る原風景を保全するための基本方針」を踏まえ「谷保の原風景保全基金」を設置し、くにたち未来寄附制度のなかでも寄付金を募った。 ・また、おんだし周辺の樹林地、滝乃川学園敷地を流れる矢川周辺地域、ハケ下に連続する水田などの耕作地と一体となった環境が「矢川おんだし里山保全地域」として東京都より指定を受けた。 ・城山公園拡張事業により取得した城山公園に隣接する農地「いただきますの森」では、市民との協働のもと、自然農法を中心とした公園の農的活用に取り組んだ。 ・窓口指導及び補助制度により、雨水浸透ますの設置を促進した。 ・公園施設長寿命化計画のなかで、矢川上公園トイレの建て替え工事を実施、完了した。 ・また、市内水路の健全度を調査し、補修の緊急度また長寿命化に向けた補修手法を検討するために、4ヵ年計画の水路台帳の整備(2年目)に取り組んだ。 ・ママ下湧水公園の階段改修工事を実施、完了した。	・「国立市緑の基本計画及び生物多様性地域戦略」を踏まえ、市民協働による生き物調査を実施し、生物多様性を学ぶことや多様性を高める活動を実践する機会を設ける、具体的にはスマホを使ってオンライン報告できる生き物調査を実施していく。 ・引き続き、大学通り緑地帯では、夏と冬に1年草の花壇整備を市民の協力を得て実施し、季節ごとに色とりどりの花々に癒される花と緑のまちづくりを推進していく。 ・「くにたち緑のサポーター養成塾」を継続的に開催し、緑化や園芸に関する専門的な知識を有し、地域の緑化活動を指導する緑化リーダーの養成に取り組む。 ・公園や緑地帯における樹木の安全管理として、倒木や大枝の落下などの事故が発生しないよう、適切な剪定や維持管理、必要に応じた更新に取り組んでいく。 ・営農支援を継続していく一方、営農継続が困難となった場合は、「崖線を起点とした湧水・用水路・緑地を含めた水田や畑までの連続性及び一定の広がりがある空間」に該当する農地について優先的に保全をしていくほか、多様な動物の生息地となる崖線樹林地の保全も含めて取り組んでいく。 ・城山公園拡張事業により取得した城山公園に隣接する農地「いただきますの森」では、市民との協働のもと、自然農法を中心とした公園の農的活用に取り組む。 ・都市化の進展により地下水涵養量は減少してきており、矢川や湧水が枯れることもある。防災・減災という観点も考慮し、今後も継続して地下水涵養施策に取り組んでいく。 ・公園施設長寿命化計画のなかで、東児童公園(ボンコ園)トイレの建て替え工事に向けて、実施設計を行う。

6 6年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績 ○花と緑の確保 ・「国立市緑の基本計画」について、これまでの施策の整理と新たに市民の緑に対する意識やニーズを捉えつつ、生物多様性の「ネイチャーポジティブ」の考え方を踏まえ、「国立市緑の基本計画及び生物多様性地域戦略」を策定した。 ・おんだし周辺の樹林地、滝乃川学園敷地を流れる矢川周辺地域、ハケ下に連続する水田などの耕作地と一体となった環境が「矢川おんだし里山保全地域」として東京都より指定を受けた。 ・「大学通り緑地帯 桜の管理方針」を踏まえて、桜の維持管理に努め、樹木診断で樹勢回復の可能性が低い、また安全性に問題がある桜については伐採更新し、大学通りの桜並木の長期的な保全に向けた取り組みを推進した。 ○水環境の保全と活用 ・地下水のかん養に向けて、地下浸透機能を持つ緑地の保全や雨水浸透ますの設置を促進した。 ・水路内のしゅんせつ工事や護岸改修工事、水路敷の草刈り・ゴミ回収などにより、農業用水としての機能を維持管理するほか、市民の憩いの場としての水環境の保全に取り組んだ。

○改善余地のある事項・課題等 相続等で営農が困難となり農家数が減っているなか、地球温暖化に伴う台風の大型化など、水路の維持管理・保全や、崖線の樹木の維持管理など、緑や水環境の維持管理は厳しさを増しており、安心安全を担保するためにも適正な維持管理が課題となっている。 このため、崖線樹林地の公有地化の推進や、農の営みが残る原風景の保全事業などにより、後世に残していくべき樹林地や農地を公有地化することで、緑地保全を推進していくことが求められているが、公有地としての維持管理には定期的な剪定や更新等が必要であり、財源の確保が必要となる。また、水路についても老朽化が進み、人員ならびに財政的な負担が増していくことが見込まれる。

(2) 施策の6年度における総合評価

B 成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げており、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 8年度の取組方針

○花と緑の確保 ・「国立市緑の基本計画及び生物多様性地域戦略」を踏まえ、市民協働による生き物調査を実施し、生物多様性を学ぶことや多様性を高める活動を実践する機会を設けるほか、緑や生物多様性の保全を推進するため、市民に関心を持ってもらったり、実際に行動を取ってもらえるよう、情報発信に努める。 ・大学通り緑地帯では、市民協働で花と緑のまちづくりを推進していくほか、「くにたち緑のサポーター養成塾」を継続的に開催し、緑化や園芸に関する専門的な知識を有し、地域の緑化活動を指導する緑化リーダーの養成に取り組む。 ・大学通り緑地帯や街路樹の連続性など景観も考慮し、適切な剪定や維持管理に取り組むほか、樹勢状況に応じた更新を推進する。 ○水環境の保全と活用 ・農家の営農支援に向けて、用水路並びに矢川等の水路機能の維持管理を行うほか、市内に残された貴重な自然資源である矢川や湧水、府中用水などの水環境を市民の憩いの場や学びの場として活用していく。 ・緑地の保全や雨水浸透ますの設置促進により、地下水のかん養に取り組むほか、定期的な調査・監視を踏まえ、良好な水質を維持するために必要な対策を検討し、矢川の流量や湧水量、また、雨水かん養対策などについては、立川市とも情報交換し、改善に向けた対応策を研究する。
--

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・「国立市緑の基本計画及び生物多様性地域戦略」を踏まえ、緑の保全、生物多様性の保全を推進し、持続可能な社会を目指し、市民、事業者など多様な主体とともに施策の推進に取り組んでいく。 ・公共施設内にある緑について、施設の立地特性や機能との調和を図りつつ、維持・更新に取り組んでいくほか、生垣緑化や建築物の緑化などの多様な緑化手法の解説、国立にふさわしい樹種、参考となる緑化事例の紹介等を内容とする緑化ガイドライン作成に取り組んでいく。また、市民協働による生き物調査などにおいては、GISの活用なども含めて、実施手法について検討していく。 ・都市化の進展により地下水涵養量は減少してきており、冬季に矢川などは枯れることもあり、矢川の流量や湧水量、また、雨水かん養対策など、立川市とも情報交換し、改善に向けた対応策を研究し、継続して地下水涵養施策に取り組んでいく。
--